

3月11日を忘れないために

6月22日、23日の2日間、富加小学校6年生は東日本大震災の被災地、宮城県まで研修旅行に行ってきました。この研修旅行は、富加町の支援を受けて震災の翌々年から「教育夢プラン特色ある教育活動推進事業」として始まり、今年で5年目となります。

今年は、この4月に震災遺構として公開を開始した仙台市立荒浜小学校を見学することができました。ここは、2011年3月11日に発生した東日本大震災において児童や教職員、住民ら320人が避難し、押し寄せる津波から人々の命を守った学校です。

研修2日目、バスから降りると、辺りは建物らしきものが全くない海に面した広大な土地でした。もちろん人が住んでいる気配はありません。この仙台市荒浜地区は巨大津波によって集落ごと流されたのです。そんな中に建つのが旧荒浜小学校でした。富加小学校と違って、1棟だけですが4階建てということに6年生の子どもたちは驚いていました。説明によると2階までは津波が押し寄せたそうです。いざ校舎内に入ると「押し寄せる」という表現でいいのかと思うほどの爪痕が生々しく残っていました。教室の床や壁、廊下の天井は破壊されていました。「津波が来るぞ」と言われ、2階から3階、4階、そして屋上へと避難した当時の荒浜小学校71人の子どもたちは、さぞかし怖かっただろうと想像しました。



一番印象に残ったのは「3.11 荒浜の記憶」という部屋で見た当時の校長先生の証言映像です。17時30分、すでに日は落ち、真っ暗で吹雪いている屋上からヘリによる救助活動が始まったそうです。ホバリングしたヘリに一人一人吊り上げられていく子どもたちの恐怖は想像もつきません。そんな子どもたちがヘリの中でパニックになることを心配し、校長先生は1回の救助に1人の教員を付けたいと提案したそうです。しかし、1人でも多くの児童の救助を優先させるという方針から子どもだけの救助になりました。吊り上げられていく子どもたちを、親や教師たちはどんな思いで見上げていたのでしょうか。「子どもたちの命だけは救いたい」という一心だったのだと思います。71名の児童の救助は翌朝の5時まで12時間続いたそうです。

約1時間の見学を終え、見上げる校舎には「ありがとう荒浜小学校」という横断幕がありました。震災時91人いた児童は転出により16人までに減少し、昨年度をもって荒浜小学校は閉校したのです。無理ありません。荒浜地区は震災後、人が住めない災害危険区域に指定されたのです。町や学校はなくなりましたが「3月11日を忘れないために」震災遺構として校舎は残りました。富加小学校48名の子どもたちは、きっとこの震災遺構の見学から感じるもの、学ぶことがあったと思います。

7月の主な予定

3	月	アルミ缶回収 【この週で交通安全教室】
4	火	代表委員会(昼) クラブ
5	水	授業参観・懇談会 救急救命講習会 食指導(2年)
6	木	フッ素洗口 児童集会
7	金	読み聞かせ 図書貸出終了 校外学習(4年) スクールカウンセラー来校
10	月	交通立番 通学班会
11	火	絆の日 連れ去り防止教室 クラブ
12	水	フッ素洗口 レインボーリング 図書返却完了
13	木	委員会 坂富交流会(なかよし) ★PTA事業委員会
14	金	大掃除
17	月	海の日
18	火	クラブ
20	木	終業式 給食あり 14:00下校
8/29	火	2学期始業式

夏休み

(7月21日～8月28日まで)

★個人懇談 7/21(金)・7/24(月)
7/25(火)・7/28(金)

★プール 10:00～11:30
7月 21(金) 24(月) 28(金)
8月 3(木) 4(金) 7(月)
8(火) 9(水) 10(木)
(詳細は後日お知らせします)

★科学作品・社会科作品相談日
夏休み前 7/7(金)・11(火)(昼休み)
夏休み中 7/27(木)・8/22(火)
(9時～11時)

★絵本ライブ 7/23(日)
★ラジオ体操会 7/30(日)
★PTA環境整備作業 8/26(土)
★加茂郡PTA研究大会(川辺) 8/27(日)

※本年度は「サマースクール」は実施しません。補充が必要と思われる場合は学年ごとに学習相談日を設定します。



富加小の自慢活動の一つ、「明るい歌声」を磨こうと全校音楽を行いました。森岡教諭の指導の下、「世界中の子どもたちが」を歌いました。どの子もタマゴのような丸い口を開け、生き生きとした歌声をひびかせていました。



6月9日(金)に4年生と5年生が田植えを行いました。はじめは恐る恐る泥の中に入っていましたが、すぐに植え方のコツを覚え、泥の感触を楽しむようにみんなで植えることができました。秋の収穫が楽しみです。

「子ども第1」の働き方改革

今、テレビや新聞では「働き方改革」と称して、労働のあり方が話題になっています。

富加小学校では、子どもたちが「笑顔」になれることを第1と考え、授業の充実と子どもに寄り添う教育の実現に向けて、教師が腰を据えてじっくりと子どもと向き合うことができるようにしたいと思っています。そこで種々の学校行事や教室掲示、教育通信などのあり方を見直すことによって、子どもと向き合う時間を確保しつつ、効率的な仕事のあり方を探って参ります。「おや、これまでと違うな。」と思われることが、これからあるかと思いますが、ご理解くださいますよう、よろしくお願いいたします。